

書塾の仲間たち

第 253 回

芝原習字教室（三重県紀北町）



●書塾からひとこと●

当塾は世界遺産のひとつである熊野古道や透明度の高さから奇跡の清流とも呼ばれる銚子川などの、自然に恵まれた三重県紀北町で37年活動を続けてまいりました。開塾当初の生徒さんが親となり、現在では通塾する子どもたちの送迎をしてくれています。

好きな書道を、かわいい生徒さん達と一緒に稽古に励み、毎月の競書出品をはじめ、コンクールや検定にも取り組んでいます。昇級や入賞を励みに努力し、結果がついてくると私も最高の気分になります。ですが、あくまでも上達に向けてモチベーションを高めることが一番の目的のため、結果より過程を重視することが大事だと考えています。

近年の急速な物価高騰は、子育て世代の教育費捻出にも影響があると思います、良質な価格の競書誌を探していました。その中で知った月刊「書写書道」誌は、超一流の講師陣が書道発展のためにご尽力されているのが誌面から伝わりました。公益財団法人ならではの良心的なコストや文部科学省学習指導要領に準拠した正統派な手本。また、気を付けるポイントもわかりやすく丁寧に書かれています。写真版に掲載される作品のひとつひとつに解説もあり、理想的な競書誌だと思います。

幼児はひらがなやカタカナ、一年生の漢字を、小学生は毛筆、硬筆の毎月の競書出品やコンクール出品を、六年生は書写検定に挑戦しています。中学生は行書や書写検定三級以上取得を目標にしており、高校生・一般部では臨書や仮名、実用書、師範取得など、個人の各希望に応じて学んでいただいています。今後も、自ら挑戦する気持ちを忘れず生徒と共に励んでまいります。

芝原習字教室 前山 美穂

※書塾に連絡したい方は事務局へお問い合わせください。



字を書くことは楽しい

東京都福生市立福生第六小学校五年 菅 結月

私は小学校一年生の時から書道教室に通い始めました。きっかけはお母さんのすすめで体験に参加したことでした。とても緊張しましたが、先生が優しく丁寧に教えてくださり、上手な字を書きたい、この教室で習いたいと思う気持ちが強くなりました。

習い始めた頃は、とめ、はね、はらいが思うように書けなかったり、墨もどれくらい付けたらいいのかわからず、字が太くなったり、とても苦勞しました。けれど書道をやめたいと思っただけでなく、続けていくうちに筆の動かし方も段々とわかってきて、上手く書けた時にはすごくうれしい気持ちになりました。学校の先生や友達からも字のことをほめてもらえるようになりました。

月刊「書写書道」に写真版で載った時はとてもうれしかったです。書く時に気を付けている事の一つでもある、お手本をしっかり見て、線の太さやバランスを大事にしていることがコメントに書かれていました。今後もいただいたコメントを大事にしていきたいです。

教室で毎年出品している、高円宮杯の大会で昨年度、硬筆の部で大会奨励賞、毛筆の部では日本武道館奨励賞を受賞しました。とてもうれしくて、感動したことが心に残っています。他の受賞している方の作品は、とてもきれいな字の作品ばかりで、私ももっと上手に書きたいという思いがさらに強くなりました。

私は他にも習い事していますが書道が一番好きで楽しいです。これからもきれいな字が書けるように目標に向かって楽しみながら頑張り続けたいです。

私と書写書道 第253回



書道の楽しさ

長野県松本深志高等学校一年 澁谷 優子

私が書道教室に通い始めたのは小学校三年生の時です。高校生が書いた毛筆の作品を街中で見かけて、その迫力に圧倒され、私もこのような毛筆の作品を書いてみたいと思ったことがきっかけでした。

教室に通い始めて一年が経った頃から、毛筆だけでなく硬筆も意識し始め、その奥深さを感じるようになりました。硬筆は、線筆や運筆、筆圧などをコントロールすることによって素晴らしい作品が書けることを先生から教わりました。今では紙に鉛筆の芯が擦れる感覚を楽しみ、納得のいくまで書き直しています。

一方、元々私がやりたかった毛筆は、やり直しができず、チャンスは一度きりであるため、硬筆で学んだ基本を忘れず、毛筆で活かしています。私はそんな緊張感の中で集中力を研ぎ澄ませて筆を運ぶ時間が好きです。納得のいく一枚が書けた時の嬉しさは、書道でしか味わえないと思います。

そんな喜びを与えてくれる書道ですが、続けるには地道な努力も必要です。中学校に入ってからは忙しくなり、毎日部活や勉強で手いっぱいでした。そんな中でも毎週出される書道の宿題はきちんと取り組もうと決めていました。地道な練習が私の土台になっていると思います。今も、どんなに忙しくても書道に取り組んでいる間は集中しようと思いがけています。

高校生になり、これまで以上に忙しい日々を過ごしていますが、これからも書道の楽しさを感じ続け、素晴らしい作品を書き上げることができるよう努力しようと思います。